

サンフランシスコ市におけるコミュニティガーデンの実態とガーデンコーディネーターの役割

姫路工業大学/兵庫県淡路景観園芸学校 平田 富士男
USDA, Forest Service Sheaucheng

1. はじめに

昨今あちこちで「コミュニティガーデン(以下「CG」と略す)を作ろう」という活動が行われてきている。しかし、このCGについては我が国で制度的な裏付けがあるわけではなく、そう呼ぶために必要な要件もや確定した定義もない。それぞれに取り組んでいる人やグループが自分なりの思いを込めて作り上げたものを、それぞれにCGと呼んでいるのが実態である。現にいくつかのCG紹介の著書¹⁾²⁾を見ても、それについての定義は自体はなされておらず、全体の記述から、これら著者の考えは「一つのスペースを地域住民がワークショップ等の作業を経ながら共同でデザインし作り上げた小公園」といったものではないかと推察されるのみである。しかし、この表現とこれら文献の著者の考えを正確に表しているかどうかはわからないし、この定義に全ての人々が合意するかどうかはわからない。コミュニティという言葉も、ガーデンという言葉もそれぞれに幅広い意味を持つ言葉だけに、このように概念が曖昧なまま、各人がそれぞれの考えでそれぞれのものを作っているのは、CGの概念がますます拡散・混乱するばかりである。そこで、CGの発祥の地であるアメリカにその施設の何たるかを求めることとし、現地調査を行った。この結果、一定地域での調査であるが、アメリカにおけるCGの実態は、これまで我が国で紹介されているようなイメージとは大きく異なることを明らかにすることができたので報告するものである。

2. 研究の方法

研究は、その実態を各方面から、できるだけ正確に把握することとし、(1)主に制度的な位置づけを把握するための行政担当者へのヒアリング、(2)主に施設構成や植栽の実態を把握するための現地調査、(3)主にガーデンでの活動に関わる住民等の意識を把握するためのアンケートの3つの方法を採用した。なお、調査対象地としては文献²⁾において「アメリカ合衆国のコミュニティガーデン活動のなかで重要な位置を占めている」として紹介されている3都市(ニューヨーク、サンフランシスコ、フィラデルフィア)のうち悉皆調査が物理的に可能で一定区域内の全体像が把握できると思われるサンフランシスコを取り上げた。

(1)行政担当者へのヒアリング(2002年8月25日)

・対象：Marvin Yee氏

(Project Director, Capital Program Division, Recreation and Park Department, City and County of San Francisco)

・質問項目

a.サンフランシスコ市としてのCGの定義、b.CGの施設やレイアウトの基本パターン、CGに植栽されているもの、c.それらについての市の基準やガイドライン、d.実際に、誰がどのようにしてCGを設置しているのか、e.市は、全てのCGを把握管理しているのか、f.CGの設置促進について市はどのような立場にいるのか、g.そのための何らかの促進システムを持っているのか、など

(2)各ガーデンの実態把握現地調査(2002年8月26日から同年9月1日)

・対象：市内の全てのCG(45カ所、ヒアリングの結果市内のすべてのガーデンを把握しているNPOのS.L.U.G.(San Francisco League of Urban Gardeners)より入手したリストによる)

・調査項目：各ガーデンの面積、ガーデン内に備えられている施設(柵、花壇、パーゴラ等)の種類とその数・規模、植栽されている植物の種類・面積割合、底地の所有者、など

(3)CGで活動する住民へのアンケート調査(2003年2月)

・対象：各ガーデン毎にそこで活動する住民(実際には「活動する住民」というイメージではなく、後述するように「個人向け貸し出し用の分区園」(plot)を借りて耕作をする住民[以下「ガーデナー」と称す]という方が実態に即している、と思われる。)の中から選出されるコーディネーター(計45人、回答23通)

・質問項目

a.あなたのガーデンは周囲にどんな影響を与えていると思うか、b.分区園を借りている人々がそれを借り

ている理由は何だと思うか、c.あなたのガーデンにはどんな課題あるか、d.コーディネイターの役割は何だと思うか、e.コーディネイターに必要な資質は何だと思うか、f.コーディネイターとしてどんな仕事を主にしているか、g.それにどれだけの時間をさいているか 等である

3. 調査の結果

(1)行政担当者へのヒアリング結果

a.サンフランシスコ市としてのCGの定義

市の定義は「CGは自家消費(personal consumption)のために住民がグループで植物を育てることができるよう公共によって維持改良されている公有地で、その利用が管理者によって許可されたもの」としている。ここで注目すべき点は「自家消費のため」としている点、「グループ単位で行う」としている点である。自家消費のために野菜を植えてもよいが、あくまでグループ単位の活動として認められる(approved)行為の許可であり、個人では認められず、また、施設名というよりは行為の呼称というべきものである。

b.CGの施設やレイアウトの基本パターン、CGに植栽されているもの

市の認識としては「CGは、約75平方フィート(約7㎡)の分区(plot)、コンポストビン、育苗棚、テーブル・ベンチをおいたスペースから構成され、周囲をフェンスで囲われているが、一般市民も入れる、というのが典型タイプである。」としている。

c.実際に、誰がどのようにしてCGを設置しているのか

「ほとんどの場合地域からの発意。しかし、個人での設置要望には応えられず、地域から設置要望が請願の形で出されたりコミュニティ・ミーティングで提議されるなど、地域の支持が明白になったら、行政としてはそれを承認すべき立場となる。その後、予算措置ができた段階でガーデナーの組織化にS.L.U.G.と取り組む。ガーデナー組織が固まれば、そこで利用規約を作ってもらい、コーディネイターを選出し、その人を中心に規約によってガーデンの運営がなされる。利用規約は、そのガーデンがある公園の管理上の規制にも適合するようになる必要があり、その一連の過程をS.L.U.G.に支援してもらう。」との回答。

d.市は、全てのCGを把握管理しているのか

「市としては、市有地上に設置されたCGだけを把握しており、州所有地上や、民有地上にあるものには関知していない。それらを含めてはSLUGが把握している。」との回答を得た。

e.CGの設置促進について市はどのような立場にいるのか

「市は、地域にCG設置に関する要望がある限り、それを促進する責務があり、そのための基盤整備を行う立場にある。実際には要望が上がってくる土地は、公園などではホームレスの住みつき、麻薬売買・売春等の不法行為(illicit activities)が横行している場所や土木部局管理地では、急峻地、暗渠上など施設として利用しにくい場所であり、そのような土地なら管理者としてもCGに利用されるのは歓迎であり、許可される。」との回答を得た。

f.そのための何らかの促進システムを持っているのか

「そのような地域の要望を組織的に支援していくため、これまで述べたような住民支援活動をS.L.U.G.と委託契約している。」との回答を得た。

(2)各ガーデンの実態把握現地調査

2.で説明した方法により市内の全てのCGの調査を行った。この結果、全てのガーデンに「個人に貸し出されている分区園(一区画平均約7.4㎡)」があり、また、そこでは全体の6割強の区域に野菜が植えられており、ヒアリングにあった「自家消費のためのガーデン」ということを裏付けている。また、6割強のガーデンには人が乗り越えられないようなフェンスが設置されるとともに(人が乗り越えられるが何らかのフェンスの設置をも含めるとその割合は93%となる。)施錠もされており、不法行為を防止する必要のある土地での設置がなされていることをも裏付けている。また一方では、ほとんど全てのガーデンに水道が完備されるほか、堆肥づくりの施設や耕作者同士のコミュニケーションを図るためのようなミーティングスペース(ベンチ、テーブル、四阿等)の整備も充実しており、自家消費のための植物栽培地だけで終わらせないようにしようとする意図が読みとれる。(図-1)

以上の結果を総合すると、サンフランシスコ市におけるコミュニティガーデンは「**住民グループが公共**

の土地管理者あるいは民間の土地所有者の許可を得て、個人的な消費のため野菜等の植物を栽培する分区園を備えたガーデンであり、コミュニティからの要望に基づき基盤整備は公共側が行い設置され、その後の運営をその住民がグループが行っていくもの」と言える。なお、公共の土地でそのような自家消費のための栽培行為を許可する背景には、「不法行為が行われたり公共施設として利用しにくい等の遊休地的なものを自家消費であれ住民にグループに使ってもらうことにより有効利用を図る」との土地管理者側の意向がある。

(3) アンケート調査

CG 設置にあたっては、住民グループが組織されることは前述したが、その組織の代表者とも言えるコーディネーターに対するアンケートの結果を集計したものが表 - 2 である。

・CG やガーデナーの状況

ガーデンの効果の評価にしてもガーデナーの関心にしても「有機野菜の供給」に対する評価が地域環境の向上やコミュニケーションの促進などに比べて得点も高く、偏差も小さくなっており、人々は「まず自分が楽しむこと」を第一の目的にしてCGの活動に参加しているようすが伺える。既往文献では、我が国での展開にあたってはワークショップによる計画・デザイン検討や市民参加あるいは協働の場として活用を強調しており、このような「主に自家消費を中心としての楽しみ方」はあまり紹介されていない。これは、ある意味では日本人が「コミュニティガーデン」という用語から受けるイメージによって、実態より少し美化されて紹介されているとも言え、我が国に紹介される段階で、市民参加の教材のように少々「堅苦しい」ものとなっているとも言えなくもない。しかし、発祥の地では「まず個人個人が楽しむこと」を大事にしながらCGは活用されており、我が国でもその展開を図る上においてはその視点も重要であると考えられる。

・コーディネーター自身の仕事や役割の評価

一方、コーディネーターは一般のガーデナーに比べて、単にガーデニングを楽しむだけでなく、ガーデナーどうしのコミュニケーション促進やその他の地域貢献意識を少なからず持っており、またそれを実現する方向での活動を実際に行おうとしている。なお、このコーディネーターとして実際にどのくらいの時間を費やしているかについての回答では、年換算で少ない者は8時間から多い者で300時間を越える者もあり、平均で約140時間であった。

(4) アンケート調査結果の因子分析

表-2の質問項目d.の「コーディネーターの役割に関する認識」の得点を変数として因子分析を行い、

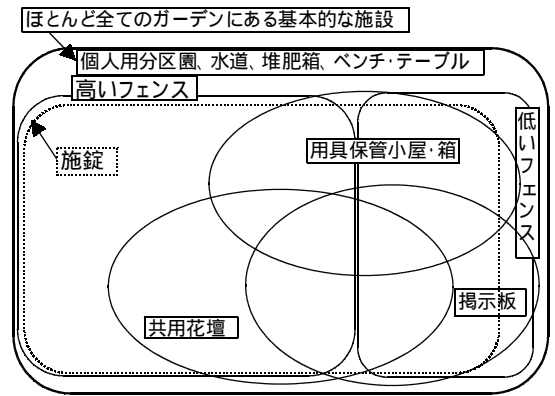


図 - 1 コミュニティガーデン内における施設の設置状況の関係

表 - 2 コーディネーターに対するアンケートの回答集計一覧

a. CGが周囲にどんな影響を与えていると思うか						
	近隣の景観向上	ガーデナーに有機野菜を提供	ガーデナーに花を提供	ガーデナーやコミュニティ間のコミュニケーション促進	コミュニティに自然体験機会を提供	その他(5)
平均得点	1.41	1.52	1.48	0.96	1.37	
標準偏差	1.1292	0.6990	0.5985	0.7058	0.6950	
b. 分区園を借りている人(ガーデナー)の関心は何だと思うか						
	有機野菜を得ること	きれいな花を得ること	地域を美しくすること	自然体験をすること	他の人とガーデニングを楽しむこと	子どもにガーデニングを教えること
平均得点	1.48	1.22	0.96	1.24	0.83	0.96
標準偏差	0.5610	0.6729	0.9881	0.6572	0.9042	0.8459
c. CGにどんな課題があるか						
	ガーデナーが分区の面倒を見なくなる	ガーデナーの減少	破壊行為の被害	賃料の徴収	グループ活動への不参加	ガーデナー維持費の不足
平均得点	1.09	-0.65	0.22	-0.33	0.59	-0.54
標準偏差	0.9852	1.1743	1.1115	1.0173	1.0900	0.9881
d. コーディネーターの役割は何だと思うか						
	ガーデンの環境維持	ガーデンのルールを守る	ガーデナーのコミュニケーション促進	まちづくりに貢献	環境教育に貢献	ガーデナーを代表
平均得点	1.26	1.30	1.11	0.72	0.61	1.09
標準偏差	0.7203	0.7624	0.7366	0.8701	0.7796	0.8926
e. コーディネーターに必要な資質は何だと思うか						
	みんなと一緒に活動することが好き	コミュニケーションが上手	コンピュータを使う	忍耐	ガーデニングに関心	園芸情報にアクセスできる
平均得点	1.41	1.46	0.11	1.28	1.48	0.63
標準偏差	0.5644	0.5694	0.9995	0.6048	0.4773	0.6950
f. コーディネーターとしてどんな仕事をしているか						
	問い合わせへの回答	申込受付整理、分区指定	ガーデナーへの注意	ガーデナーのコミュニケーション促進	料金徴収、資金集め	SLUGとの共同活動
平均得点	1.11	1.33	1.02	0.85	0.59	1.00
標準偏差	0.9550	1.2301	1.5071	1.2806	1.6195	1.2247

表 - 3 役割認識項目毎の因子負荷量

役割認識項目	第1因子	第2因子	第3因子
ガーデンの環境維持	0.1364	-0.1847	0.7447
ガーデンのルールを守る	-0.1496	0.0561	0.5154
ガーデナーのコミュニケーション促進	0.0064	0.5365	-0.1106
まちづくりに貢献	0.4939	-0.0443	0.1228
環境教育に貢献	0.4929	-0.0024	-0.0884
ガーデナーを代表	-0.0610	0.5452	-0.0633
寄与率(累積)	36.38%	66.04%	82.80%
負荷量平方和	2.183	1.78	0.951

表中数値はバリマックス回転後の値

3つの因子を導き出した(表-3)。これらの因子のうち、第一因子は「地域への貢献意識」に関する軸、第二因子は「ガーデナーのコミュニケーション促進意識」の軸、さらに第三因子は「ガーデン内部の環境維持意識」に関する軸と読める。

(5) 因子分析結果と各ガーデンの状況等の比較

次に、これらの3つの因子によって各コーディネーターに因子得点を与え、各コーディネーターが運営するガーデンの状況との対比を行った。その結果、「地域への貢献意識」因子得点と「花植栽面積率」に高い相関が見られ、地域貢献意識の高いコーディネーターのいるガーデンでは、野菜より花が積極的に植栽されている状況がわかった。(表-4) このことから、通常は自家消費の野菜が植栽の中心であるCGでも、コーディネーターの地域貢献意識がガーデンの状況にも変化をもたらし、地域にあるガーデンとして地域の景観向上等に貢献する花の植栽が促進されていく状況があること、またそれには地域貢献意識を持ったコーディネーターの役割が大きいことがわかった。

さらに、負荷量平方和が1を下回る第3因子をのぞき、第1因子と第2因子の因子得点により各コーディネーターを布置すると(図-2)概ね4つのグループに分けられることがわかった。そこで、このグループ毎にコーディネーターのガーデンの地域への波及効果認識、活動状況、活動に費やす時間の平均、そのコーディネーターの運営するガーデンの花植栽面積率平均を見た。(表-5)

まず、CGが周辺地域にどのような影響を与えているかについては、第一因子、第二因子ともに高い因子得点のコーディネーターグループほど近隣の景観向上、ガーデナーやコミュニティのコミュニケーション促進や地域に自然体験機会を提供していると言った項目を他のグループより高く評価していた。さらに、実際のコーディネーターとしての活動内容も同様に不熱心なガーデナーの注意喚起やガーデナーのコミュニケーション促進、S.L.U.G.との共同活動等により多くの時間を割いており、絶対時間数も全体的に両因子の得点が高いグループが多く、熱心にコーディネーターとしての活動を行っているようすが伺えた。

・我が国への示唆

我が国でのCGづくりでは、ワークショップ等により協働作業で共同花壇のデザインや植栽を行っていくことをつうじコミュニティ形成につなげていくことが強調され過ぎているきらいがあり、結果として、かえって住民にとって少々取っつきにくいものとなっているのではないと思われる。しかし、我が国には外見的にはこれらのCGとあまり変わらない「市民農園」という資源がすでに多く存在しているわけであるから、その運営方法を工夫することによって、それを実質的にCGとして変容させていくことも可能であり、こちらの方が効率的であるとも考えられる。そのため、コーディネーターとしての役割をになう人材の育成が必要であり、今回の回答者の中にもいたり、また受講する意向がある旨回答があったマスターガーデナープログラム⁵⁾などを参考にその育成を図っていくことなども有効であると考えられる。

表-4 各コーディネーターの因子得点とそのガーデンの花面積率の相関係数

	「地域への貢献意識」因子の得点	「ガーデナーのコミュニケーション促進意識」因子の得点	「ガーデン内部の環境維持意識」因子の得点
花植栽面積率	0.538 *	0.201	-0.063
有意確率(両側)	0.008	0.359	0.775

*相関係数は1%水準で有意(両側)

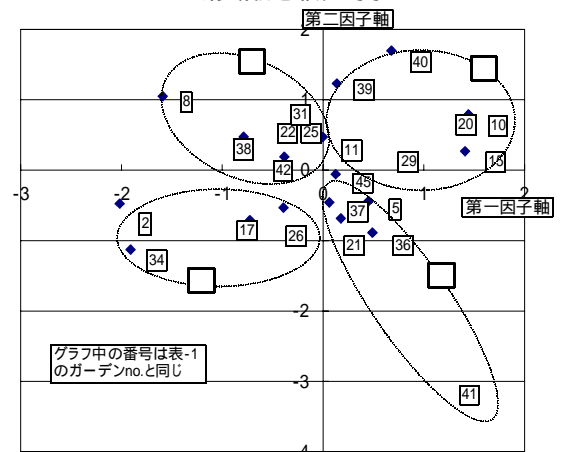


図-2 各コーディネーターの因子得点分布とグループ分け

図-2 各コーディネーターの因子得点分布とグループ分け

表-5 グループ別コーディネーターの認識、コーディネーター状況等

グループ	CGが周辺にどんな影響を与えていると思うか					花の植栽面積率平均(%)	
	近隣の景観向上	ガーデナーに有機野菜を提供	ガーデナーに花を提供	ガーデナーやコミュニティ間のコミュニケーション	コミュニティに自然体験機会を提供		
	1.64	1.64	1.64	1.21	1.50	63	
	1.67	1.67	1.33	1.33	1.50	65.8	
	1.50	1.33	1.50	0.42	1.17	43	
	1.25	1.38	1.38	0.75	1.25	39	
グループ	コーディネーターとしてどんな仕事をしているか					活動に費やす時間(h/年)平均	
	問い合わせへの回答	申込受付整理、分区指定	不熱心なガーデナーへの注意喚起	ガーデナーのコミュニケーション促進	料金徴収、資金集め		S.L.U.G.との共同活動
	1.79	1.36	1.36	1.36	1.07	1.50	265
	0.00	1.17	0.17	0.33	-0.17	0.33	101
	1.67	1.33	1.33	1.00	1.17	1.00	189
	0.75	1.50	1.25	0.50	0.00	1.13	111

参考文献

- 1) (財)世田谷区都市整備公社まちづくりセンター(1998)「コミュニティガーデンをつくろう」、pp120。
- 2) 越川秀治(2002)「コミュニティガーデン-市民が進める緑のまちづくり-」、学芸出版社、pp190。
- 3) 平田富士男(2002)「アメリカのマスターガーデナーの人材像とその育成法」、ランドスケープ研究65(5)、817-820。